

来月中旬に新計画策定

国交省

新たな建設リサイクル推進計画を見据え、国土交通省の小委員会が5日、「建設リサイクル推進に係る方策」について最終報告をまとめた。中長期的方向性として、民間主体の創造的取り組みを軸とした建設リサイクル市場の育成などを提示。構造物の延命化、200年住宅の普及などが必要と指摘した。国交省はこの報告を踏まえ、3月中旬に新計画を策定する。

現行の建設リサイクル推進計画は平成14年、建設リサイクル法の全面施行に合わせて策定された。この間、再資源化率の向上など一定の成果は得られたものの、依然として不法投棄の約8割を建設廃棄物が占めるなど課題も多く残っている。

国際競争力強化に向けた港湾政策

企業立地を促進

国交省・港湾分科会

国土交通省の交通政策審議会港湾分科会はこのほど、「我が国産業の国際競争力強化等を図るための今後の港湾政策のあり方」(答申案)について、2月1日付けで登記を済ませた農事組合法人霧島高原純粋黒豚牧場(平邦範代表理事)の設立にも全面協力し、法人の設立手順から事業の流れに公への手続き、企画書作りなど、中には中心となって実施した。今後は豚舎などの施設整備も予定している。

同社は設備設計の多くを手掛け、そのノウハウを生かして環境事業部を立ち上げた。これまで県内市町村に対して、木質バイオマスの提案をはじめ水環境保全対策、遊休農地の活用策などのコンサルティングを主な仕事としていた。

藤和設計環境事業部が全面支援 管理棟や施設建設へ 霧島の農事組合法人設立

設備設計の(株)藤和設計(藤元和弘社長)は、環境事業部を立ち上げ、県内の市町村や民間企業を対象に、環境に優しい事業をサポートし



前田市長を囲み記念写真に納まる陳情者ら(後列右端が増田氏) 霧島市役所で

業、観光の融合を目指す農事組合法人の場合も法人の設立事前打ち合わせから全面支援。発起人会の開催(19年12月25日)、設立総会の開催(1月25日)、設立登記の申請を経て設立登記完了まででこなし、同組合では、霧島市霧島田口に汚水処理施設などの設備をほしめ

個別課題に対する取り組みには、▽予防保全の実施などによる構造物の延命化▽超長期(200年)住宅の普及▽既存ストックの有効活用▽現場分別基準の策定▽小口巡回共同回収システムの活用▽電子マネーフェスト利用の原則的な原則化▽質の高い建設リサイクル推進企業の評価システムの整備▽総合評価方式、VE方式などを活用した設計の合理化、工法の改善などを盛り込んだ。

川河川事務所は、災害発生時に迅速な被害状況の把握や円滑かつ的確な災害対応を図るため、20年度災害時協力業者(土木工事部門、機械設備部門、電気通信部門)を3月3日まで募集する。

災害時協力業者を募集

申請受付 来月3日まで

社、菱刈出張所(大口・菱刈地区)8社、同(湧水地区)10社、京町出張所(京町地区)10社、川河川事務所(薩摩川内市東小路町20-1)20996・222・3271まで。担当課は、土木工事部門が管理課、機械設備部門が機械課、電気通信部門が調査課。

6月に港湾中期計画策定

優先すべき施設明示

国交省

国土交通省は、今後10年間(20年〜29年)の港湾関係事業の目標と事業量などを示した「中期計画」(仮称)を6月ごろに策定する。港湾管理者や市町村長、港湾利用者、有識者からの意見を踏まえ、優先的に整備すべき港湾・海岸施設、事業を位置付ける方針。昨年末、港湾管理者や市町村長などから意見を集め、中期計画の骨子案を作成した。計画(骨子案)は、大きく▽策定の趣旨▽計画の基本的な事項▽主要な重点課題▽計画策定に当たった基本的視点▽整備すべきだとした。見直しについても意見を交わし、来月3月ごろに答申をまとめる。基本方針は、全国の港湾計画を審査する際の指針となる。港湾分科会では、これまでに「地震に強い港湾のあり方」「港湾環境政策の基本的な方向」「港湾施設の整備・維持管理システムのあり方」について審議・答申している。これらは、今回の答申とともに、夏ごろの閣議決定を目指す次期社会資本整備重点計画(20・24年度)や各年度の予算に反映させる方針。

おみやみ情報をお寄せください

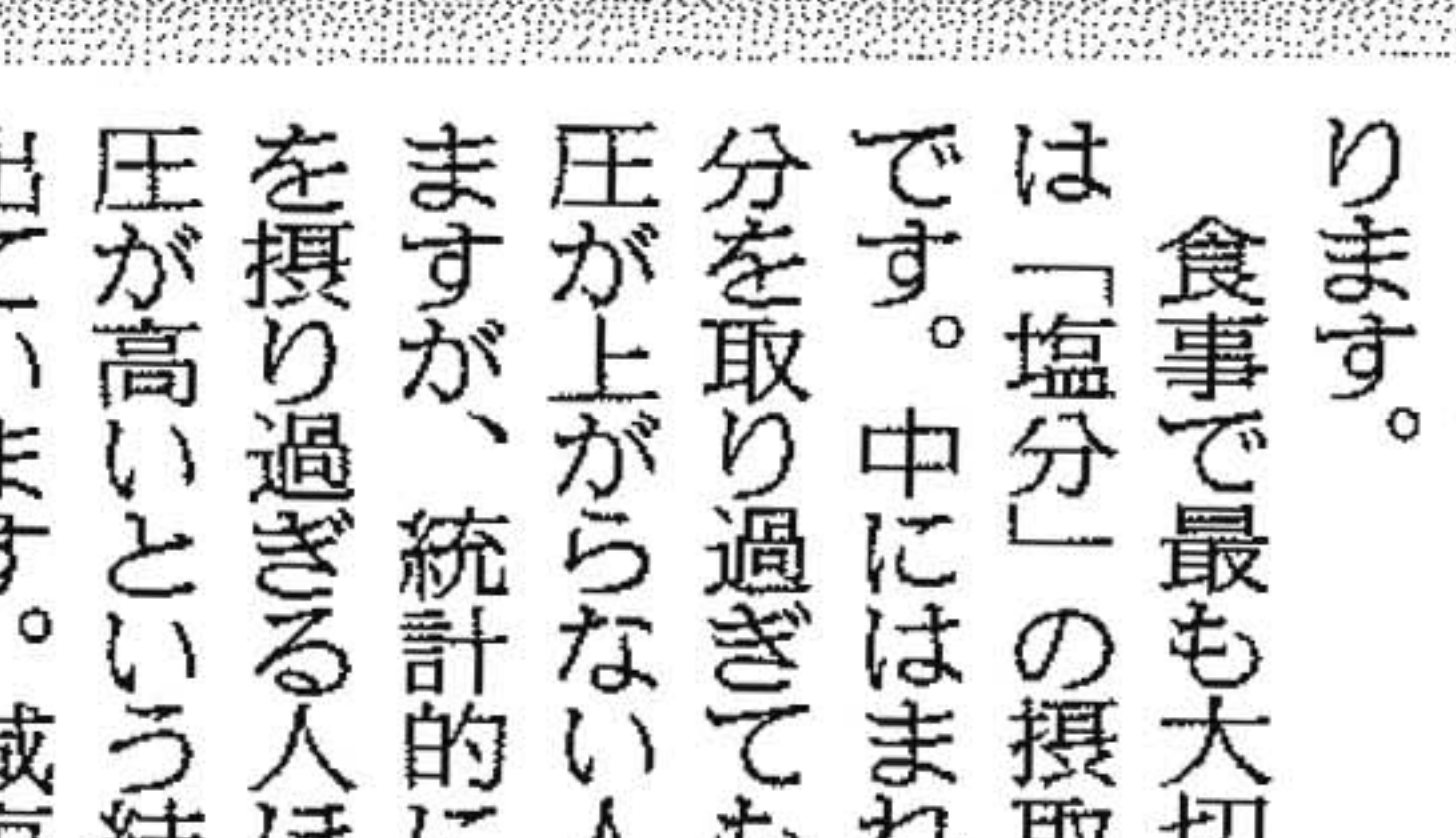
新聞掲載は無料です。毎週火曜日から土曜日(夏季・年末年始休暇および祝祭日の翌日を除く)に掲載します。会社の代表者ならびに社員にかかわらずご家族、身内の方もご相談ください。

おみやみ情報をお寄せください

新聞掲載は無料です。毎週火曜日から土曜日(夏季・年末年始休暇および祝祭日の翌日を除く)に掲載します。会社の代表者ならびに社員にかかわらずご家族、身内の方もご相談ください。

運動と減塩が大切

高血圧の治療は食事と運動、薬物で、目標は「減塩」と「減量」です。軽い高血圧なら、運動をすることで安静時の血圧を低下させることができ、高血圧治療の薬を飲んでいても運動を併用することで、薬を減らせる場合もあります。運動療法は有酸素運動を1日30分程度行うことがめやす。ウォーキングや水泳、サイクリングといった有酸素運動は血行を促進して、血圧を下げる働きがあります。



食事でも最も大切なのは「塩分」の摂取制限です。中にはまれに塩分を取り過ぎて、血圧が上がらない人もいますが、統計的に食塩を摂り過ぎる人ほど血圧が高いという結果が出ています。減塩することで、左心室肥大やたんぱく尿の程度を軽くする、動脈の柔軟性を高める、降圧薬の効果をも高めるなどの効果があります。日本人は平均で11〜12g摂取していますが、半分程度の1日6g以下に抑えるようにしましょう。味付けは「薄味」を心がけ、みそ汁は1日1杯、しょうゆを何にでもかけないよう気をつけ、酢をかけるなどして工夫します。魚やイモ類、バナナなどに含まれるカリウムは不要なナトリウムを排出してくれる役割があるので、そういう食品を積極的に食べるのも有効です。アルコールは焼酎なら2分の1合程度に抑え、禁煙も必要です。食べ過ぎを防ぎ、脂質の摂取量を制限して適正体重を維持することも治療には大切で、予防的な観点からも努力したい目標です(今回「高血圧」については終了です)。

監修 高見馬場山口クリニック 副院長 山口克也先生